

みどり 水土里ネット富山だより

(富山の土地改良情報)

2017
第571号

1月1日発行

謹賀新年

水土里ネット富山

平成29年元旦 富山県土地改良事業団体連合会



上条頭首工から望む大日岳 (富山県中新川郡上市町)

会
長

河合 常則
(学識経験者)

副
会
長

鹿熊 正一
(朝日町土地改良区理事長)

専
務
理
事

永森 雅之
(学識経験者)

理
事

荻野 幸和
(黒部川左岸土地改良区理事長)

理
事

吉野 勉
(射水平野土地改良区理事長)

理
事

中川 忠昭
(常西用水土地改良区理事長)

理
事

夏野 修
(砺波市長)

理
事

大井 正樹
(高岡市土地改良区理事長)

理
事

岩田 忠正
(城端土地改良区理事長)

代
表
監
事

木下 俊男
(氷見市土地改良区理事長)

監
事

上田 英俊
(入善土地改良区理事長)

監
事

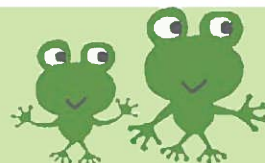
津田 修
(婦負郡藤ヶ池土地改良区理事長)

(他 職員一同)



水土里ネット富山

(富山県土地改良事業団体連合会)



CONTENTS

1 新年のご挨拶

富山県土地改良事業団体連合会長	河合 常則……………	1
全国水土里ネット会長	二階 俊博……………	2
参議院議員	進藤金日子……………	3
富山県知事	石井 隆一……………	4
富山県議会議長	大野 久芳……………	5
北陸農政局長	印藤 久喜……………	6
富山県農林水産部長	伍嶋二美男……………	7
農村整備課長	志村 和信……………	8
農村振興課長	飛世 隆一……………	9
2 平成28年度 県土連理事会の開催……………		10
3 第10回「元気とやま」むらづくり推進大会の開催……………		10
4 「平成28年 とやま水土里フォーラム」の開催……………		11
5 第39回全国土地改良大会（石川大会）……………		12
6 北陸四県土地改良事業団体連合会協議会 農業農村整備事業に関する要請…		13
7 平成28年度富山県建設優良工事（土地改良部門）の表彰……………		14
8 農業集落排水施設に係る新技術普及研究会 北陸ブロック会議……………		15
9 平成28年度換地関係異議紛争処理実務研修会（北陸ブロック）……………		15
10 土地改良区の組織強化を目指し、研修会を開催……………		15
ため池監視・管理体制強化技術研修会……………		15
11 式典 発電所の竣工式並びに運転開始式……………		16
12 <情報>富山県農業用水小水力利用推進協議会……………		16
13 <情報>非補助農業基盤整備資金のご案内……………		17
14 <お知らせ>今後の主な行事予定……………		17



新年のごあいさつ

富山県土地改良事業団体連合会
(水土里ネット富山)
会長 河合 常 則

新年明けましておめでとうございます。輝かしい平成29年の初春を迎え、会員ならびに関係の皆様にご挨拶を申し上げます。

皆様には、日頃から農業農村整備の推進にご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は地震や台風による洪水被害など多くの自然災害が発生いたしました。被災されました皆様にご心からお見舞い申し上げます。

一方、明るい話題もありました。オリンピック・リオ大会において、日本が史上最多41個のメダルを獲得、本県からも2人の金メダリストが誕生し、東京大会に向けて期待の膨らむ大会となりました。また、昨年の参議院選挙において土地改良の代表として9年ぶりに立候補された進藤金日子さんが「土地改良は日本の命綱」であると訴えられて見事当選を果たされました。私たち土地改良関係者にとって誠に喜ばしいかぎりであります。進藤議員は、土地改良予算の確保や土地改良制度の見直し、中山間地域の農業などについて全力で取り組んでおられます。平成28年度補正予算で1,752億円の確保ならびに平成29年度当初予算も合わせて、大幅削減前の予算に近いところまで漕ぎ着けることが出来ました。これも我々関係者が一致団結して活動した成果のひとつであると思っております。

農業農村は安全・安心な食料の安定供給はもとより、豊かな自然環境や生物多様性の保全、農地の洪水防止効果などによる防災機能など、多面的な機能の発揮を通じて県土を保全し、県民の暮らしを支える重要な役割を果たしてまいりました。

しかし、一方では米価の低迷による農業所得の減少や農業者の高齢化の進行、農村の活力の低下といった問題が山積しています。これらの問題解決に向けた持続可能な強い農業の実現のためには、6次産業化の戦略的推進とともに大区画化や汎用化等の農地整備や適宜適切な農業水利施設等の維持・更新のための土地改良事業が必要不可欠であります。

また、農林業の成長産業化を図っていくためには、担い手への農地の集積を進めるとともに生産コストの削減を図ることも必要ですが、最も重要なことは中山間地域においては、生産性だけを追求するのではなく、生活圏として人が住み安心して農林業を営んでいける環境づくりを地域振興策として行なっていくことが極めて重要なことだと考えております。さらに、政府の掲げる地方創生に関しましては、申すまでもなく農業は地域の根幹をなす重要な産業のひとつであり、農業農村の振興は地方創生に無くてはならない大きな課題であります。

いずれにしても「農業は国の基」であり、農業農村が健全であってこそ豊かな国土や自然環境も維持されます。意欲ある農業者がこれからも安心して農業に取り組むことのできる安定した農政を進めていかなければなりません。

本会といたしましては、農山村地域の活性化と農地と水といった農業資源をこれからも適切に守っていくため、関係機関と連携を図りながら取り組んでまいります。

関係皆様には一層のご支援とご協力をお願いいたしますとともに、本年が皆様にとりまして希望に満ちた明るい年となりますように心からご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年に当たって

みどり
全国水土里ネット
会長 二階 俊博

平成29年の年頭に当たり、土地改良に携わる全国の皆様に、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。昨年、多くの災害に見舞われました。四月には熊本県と大分県で、また、10月には鳥取県で大規模な地震が複数回発生しました。現地では復旧作業が急ピッチで行われておりますが、今なお避難生活を余儀無くされている方々が多数おられます。また、8月末から9月には東北・北海道に、10月には南九州にそれぞれ台風が襲来し、洪水による被害が発生しました。これらの自然災害は、予期せぬ形で発生し、いずれも多大な被害をもたらしております。被災された方々には心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧が出来ますよう、私どもとしても一体となって全力を尽くしたいと思っております。

さて、私は会長に就任以来、民主党政権時代に7割近く削減された状況であった予算をまずは復活させようと、「闘う土地改良」の重要性を訴え、予算獲得に向け本気になって取り組んで参りました。これまで各都道府県連合会からは、財源不足による事業の停滞に対し悲鳴が上がっておりましたし、一日も早く予算確保を訴える声が届いておりましたが、この度、全国の皆様の熱心な要請活動によって、平成28年度補正予算で1752億円を確保するなど、平成29年度当初予算も含め、ようやく以前の水準に近いところまで漕ぎ着けることが出来ました。

また、土地改良の代表を再び国会へ送り込むとの強い決意のもと、昨年の参議院選挙では、見事進藤さんが当選を果たされました。この選挙活動を通じて、地方のすみずみまで「闘う土地改良」の精神が浸透したと実感いたしております。今後は、進藤さんの活動と連携して、更に一層の浸透が図られるよう念じております。

今、全国の農業農村では、過疎化・高齢化、担い手不足に加え、地域活力の低下などの課題が山積しております。また、コメなどを巡る先行き不安から、状況が一段と厳しくなっております。一方で、全国で農業水利施設の老朽化が進行しており、食料生産の増大、非食料用米への転換に支障を来すばかりでなく、国民の生命や財産にも多大な損害をもたらすのではないかと危惧されております。

このような状況の中、農林水産省では、昨年8月に新たな土地改良長期計画を策定されました。その中で、産業政策として「豊かで競争力ある農業」、地域政策として「美しく活力ある農村」、さらに産業政策と地域政策を支える土台として「強くてしなやかな農業農村」の三つの政策課題を掲げられております。また、昨年11月には、政府の「農林水産業・地域の活力創造本部」において、「農業競争力強化プログラム」が決定され、「農林水産業・地域の活力創造プラン」の中に位置づけられました。このプログラムには、農業生産・流通の構造改革とともに、真に必要な基盤整備を円滑に行うための土地改良制度の見直しも謳われております。農地の集積・集約化を進めるため、農地中間管理機構が借りている農地のほ場整備事業について、農地所有者等の費用負担を無くし、事業実施への同意を不要とすること、また、土地改良区の体制強化等についても検討を進めることとされています。

私たち土地改良担当者としては、これら政府の動きと軌を一にして、これまで培ってきた技術と蓄積された経験を活用し、「闘う土地改良」を活動の基本におきつつ積極的に貢献していくことが重要であると考えており、加えて、水土里ネットが農業農村を守り、発展させていくことの重要性について広く国民の皆様にアピールし、共感を得ていく努力が必要と考えます。皆様と一体となって取り組み、所期の成果が得られますよう、引き続き奮闘して参りたいと思っております。

最後になりますが、本日、輝かしい年の初めに当たり、本年も農業農村が活力を得て、一層発展しますようご期待申し上げますとともに、本年が全国の皆様にとってよき年であり、日々健やかに過ごされますようご祈念申し上げます、私の新年のご挨拶といたします。



今年も「闘う土地改良」で全力

参議院議員 進 藤 金日子 かねひこ

新年あけましておめでとうございます。皆様方におかれましては、良き年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

私は、皆様のご支援をいただき、現在、参議院議員として国政に参画いたしております。土地改良に関係する方々が心一つにさせていただいた昨夏の結果を胸に刻み、今年も皆様のご期待に着実に応えることができるよう努力してまいります。

昨年は、本当に災害の多い年でした。4月の熊本地震被害、8月の北海道・東北を中心とした台風被害などがありました。被災された方々には心からお見舞い申し上げますとともに、早期の復旧・復興に全力を尽していく必要があります。勿論、東日本大震災や原子力災害への対応についても、引き続きしっかりと対応していくことが重要です。また、気候変動等に起因すると思われる豪雨災害等が頻発していることを踏まえ、防災減災対策の早期かつ着実な実施が喫緊の課題となっており、各地域の実情や特性を踏まえて機動的に対応していく必要があります。

土地改良にとって本年は、制度的にも予算的にも極めて重要な年となります。

まず制度です。第一に昨年8月に閣議決定された土地改良長期計画実働の初年であり、目標達成に向けて確実に所要の成果を確保していく必要があります。第二に昨年11月に改訂された「農林水産業・地域の活力創造プラン」と新たに策定された「農業競争力強化プログラム」に基づき、着実に施策を実施していく必要があります。特に、「農業競争力強化プログラム」は、農業者が自由に経営展開できる環境を整備するとともに、農業者の努力のみでは解決できない構造的な問題を解決するため、13項目にわたる課題に対する取組みの道筋を示し、その実行により農業者の所得向上を図ろうとするものです。土地改良については、土地改良制度の見直しとして、農地中間管理機構が借り入れしている農地について農業者の費用負担や同意を求めない基盤整備事業制度創設の他、国・都道府県営土地改良事業に係る申請人数要件(15人以上)の廃止、突発事故に係る事業やため池等の耐震化事業について原則農業者の費用負担や同意なしに事業実施が可能となる仕組みの創設、一定の機能向上を伴う更新事業について同意徴集手続を簡素化する見直しなどが盛り込まれています。これらは、今後、土地改良法を改正した上で順次実行されていくことになります。

次に予算です。今年度補正予算で大幅な追加がなされ、更に平成29年度予算政府案においても着実に予算が回復してまいりました。補正予算は、基本的に予算不足による継続地区の工期遅延を正常化する予算であり、当初予算は順番待をしている新規地区の早期の着工と完了に必要な安定的な予算です。

富山県においても、局地的なゲリラ豪雨等による広域的な洪水被害の発生、決壊等により下流域に甚大な被害を及ぼす警戒ため池や地すべり被害への対応、さらには耐用年数を迎え老朽化が進む農業水利施設の更新や耐震化などの防災減災対策を早急に進めるとともに、農業生産性の向上と高付加価値化を図るための区画整理や水田汎用化に向けた排水対策など、総合的な農地整備を計画的に進める必要があるなど、取り組むべき課題は山積しており、往々にして課題の大きさと重さに伏し日がちになります。是非とも頭を上げ、日を見開き、微笑みをもって前に進みましょう。

どんな困難も一人ではなく皆で立ち向かいましょう。私も、引き続き「闘う土地改良」の先頭に立つて全力を尽くし、皆様と一緒に諸課題の解決に向けて専心努力してまいります。今年が皆様にとってご家族共々素晴らしい一年となりますよう心からお祈り申し上げ、新年の挨拶いたします。



人が輝く「元気とやま」の創造をめざして

富山県知事 石井 隆一

明けましておめでとうございます。平成29年の初春を県民の皆様とともに寿ぎたいと存じます。昨年10月の知事選挙におきまして、多くの県民の皆様のご支援とご支持をいただき、引き続き県政を担うことになりました。お寄せいただいた県民の皆様のご信頼と期待にお応えするため、初心を忘れることなく、全身全霊を挙げて県政に取り組んでまいります。

知事に就任して以来、私の変わらぬ目標は、県民の皆さん一人ひとりが夢と希望を持って、いきいきと働き暮らせる「元気な富山県」を創ることです。このためにも、引き続き行財政改革に真摯に取り組むとともに、「活力」「未来」「安心」の三つの基本政策と、これらを支える「人づくり」に関する重要政策、合わせて100項目の政策の着実な推進に努めてまいります。

第一に「活力とやま」、すなわち、グローバル競争を勝ち抜く力強い産業の育成、企業立地の推進、農林水産業や観光の振興など、県民だれもが、「誇りを持って働き暮らせる県づくり」を目指します。

第二に「未来とやま」、すなわち、ご夫婦が安心して子どもを産み育てられる環境づくり、本県への移住促進、教育・文化・スポーツの振興など、「未来に希望の持てる県づくり」を目指します。第三に「安心とやま」、すなわち、医療福祉の充実、自然環境の保全、地震・津波・原子力災害対策など、「健康で安全・安心な県づくり」を目指します。さらに、こうした元気な県づくりの基盤である「人づくり」、すなわち、子どもの可能性を伸ばす教育、グローバル人材の育成、若者や女性の活躍の支援、元気な高齢者が活躍するエイジレス社会の実現などを進めます。

お蔭様で、平成27年3月に開業した北陸新幹線の乗車人員は、開業前の3倍近い状況が続き、観光客等の大幅増加、企業立地の進展など、様々な開業効果が現れています。また、知事就任時の約400億円の構造的財源不足を解消するとともに、県債残高も半世紀ぶりに減少するなど、富山県は新しい未来を切り拓く絶好のチャンスを迎えています。

これまで、県内各地で、「今日より明日、明日より明後日を良くしよう」と、ひたむきに努力されている多くの県民の皆さんにお会いすることができ、大変心強く、またうれしく感じています。私は、今後とも、北陸新幹線の開業効果と、数年来の働きかけにより国の重要政策の一つとしていただいた「地方創生戦略」の二つを追い風として最大限に活かしながら、県民の皆さんの知恵と力を結集し、ふるさと富山県の限りない発展と県民の皆さんの一層の幸せのために、誠心誠意、全力を尽くして県政に取り組んでまいります。

新年にあたり、県民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝、ご多幸を心からお祈り申しあげまして、新年のごあいさつといたします。



新年を迎えて

富山県議会議長 大野久芳

新年明けましておめでとうございます。

輝かしい平成29年の新春を、皆様とともに寿ぎたいと存じます。

皆様には、日頃から本県の農業・農村整備に多大なご尽力をいただき、深く感謝を申し上げます。さて、我が国の社会経済環境は、少子高齢化の進行と人口減少時代の到来、グローバル化の一層の進展や環境・エネルギー問題、テロ・事件、事故、災害による社会不安の顕在化など大きく変化しております。特に、昨年は北朝鮮の水爆実験やミサイル発射、欧州各地でのテロなど国際情勢が緊迫化するなか、日本にとっても、熊本地震を始めとする全国各地で頻発する地震や大雨による土砂災害、日銀のマイナス金利導入、消費税率10%への引上げ再延期など激動の一年でありました。

このような社会経済状況の中で、各自治体においては、自らの判断と責任において、安全で安心して暮らせ、特色のある地域社会づくりに積極的に取り組むことが求められております。このため本県では、県民が安全安心で、豊かさを実感でき、いきいきとした生活が営める元気な富山県を築くため、本県の有する豊かな可能性や魅力を存分に引き出す各種施策を展開しているところです。新幹線開業効果によって、全国から多くの方々が本県を訪れ、それに伴い、本県の「食」に対する注目度もますます大きくなっております。一方、TPP問題等の不安定な影響による県内の農林水産業への影響が懸念されます。

県議会といたしましても、県政運営の両輪の一つとして、新幹線開業効果を持続・拡充する取り組みをはじめ、必要な公共事業予算の確保や安心して農林水産業を営める環境づくり等を積極的に支援するとともに、県民の皆様の声に真摯に耳を傾け、皆様に一層信頼され、期待される議会となるよう、緊張感とスピード感をもって最大限の努力をしまいる所存であります。

申すまでもなく、農業・農村は、安全で良質な食料の供給はもとより、県土の保全や環境の保全、文化の伝承など、極めて重要かつ多面的な役割を果たしております。

近年、農業・農村を取り巻く環境は大変厳しいものがありますが、富山県土地改良事業団体連合会におかれては、これまで培われてきた優れた知恵と技術を活かされ、必ずや、個性豊かな魅力ある農業・農村のより一層の輝かしい未来を切り拓かれるものと確信しております。

どうか、皆様には、今後とも本県発展のため一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げますとともに、新しい年が皆様にとって希望に満ちた幸多い年でありますようお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。



年 頭 挨拶

北陸農政局長 印 藤 久 喜

明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃より農林水産行政の推進に御理解、御協力を賜り、とりわけ農業農村整備事業の推進に御尽力をいただいていることに厚く御礼申し上げます。

さて、昨年11月29日に内閣総理大臣を本部長とする農林水産業・地域の活力創造本部は、一層の農業の成長産業化に向けた改革に関する検討の経過を追加し、「農林水産業・地域の活力創造プラン」を改訂し、これを決定いたしました。

これにより農林水産業の成長産業化を我が国全体の成長に結びつけるとともに、食料自給率・自給力の維持向上を図ることにより国民の食を守り、美しく伝統ある農山漁村を将来にわたって継承してゆくこととしております。

今般の農政改革では、これまで当省としての取組が弱かった部分に初めて切り込み、抜本的な見直し方向をとりまとめたものであり、生産資材価格の引下げや、流通・加工構造の改革、土地改良制度の見直し、全ての加工食品への原料原産地の表示など、生産から流通・加工、消費まであらゆる面での構造改革を進めるものです。

土地改良制度の見直しについて少し御紹介しますと、平成35年度までに全農地の8割を担い手農家に集積するという政府全体の目標を達成するため、「農地中間管理機構が借り入れている農地について、農業者からの申請によらず、都道府県営事業として、農業者の費用負担や同意を求めない基盤整備事業を実施できる制度を創設」や「国・都道府県営土地改良事業に係る申請人数要件を廃止」、「一定の機能向上を伴う更新事業について、同意徴集手続の簡素化の対象に追加」などの改正を行うこととしており、今年の通常国会に改正法案を提出することを目指しています。

皆様には、できるだけ早く、改正案について御説明したいと考えております。

また、土地改良区の在り方については、組合員資格や土地改良区の体制について、更に実態を調査することなどを通じて、引き続き、検討していくこととしています。

このため、皆様には、新たな取組に向けて御尽力をお願いする1年になりますので、貴連合会におかれましても、情報の提供や御指導等のお力添えをお願いします。

北陸農政局としましては、現場の視点に立ち、現場の声に耳を傾ける、現場と農政を結ぶという農政局の役割を通じて、北陸管内における農業農村整備事業の円滑な推進に尽力して参ります。

結びに、本年が皆様にとりまして良い年となり、また、富山県土地改良事業団体連合会の皆様にとって実り多い年となりますことを御祈念申し上げ、年頭の挨拶と致します。



新年のごあいさつ

富山県農林水産部長 伍 嶋 二美男

明けましておめでとうございます。

輝かしい初春を迎え、富山県土地改良事業団体連合会、土地改良区等の皆様方に謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

日頃から本県の農業農村整備をはじめ、農政の推進に格別のご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、農業農村を巡る情勢は、生産物価格の低迷、農業従事者の高齢化、担い手の不足など、依然として厳しいものがあり、加えて、現在、TPP協定をめぐる対応や米政策の見直しなどの大きな課題に直面しています。このように厳しい状況の中ではありますが、農業は県民の「いのち」と「くらし」を支える生命産業であり、幅広い施策を展開していくことで、元気な農業と魅力ある農村をつくりだし、次の世代へしっかりと継承していくことが重要であると考えております。

このため、県では、農業経営の安定化と収益力の向上に向け、農地を大区画化し、農地の集積・集約化を加速させることにより、米の生産コストを大幅に低減するとともに、「コシヒカリ」を超える新たなブランド米の品種開発の加速化や「とやま農業未来カレッジ」による農業後継者の育成に力を入れて取り組んでいます。また、農地の汎用化とともに農業機械や施設の整備を進め、園芸の1億円産地づくりをより一層推進することとしております。

さらに、安心・安全で活力ある農村をつくるため、県内に約2千箇所存在する農業用ため池について、危険度に応じて計画的に耐震化を図るとともに、ため池への落水事故防止等に向け、これまで適用事例がない国事業を活用することで地元負担の軽減を図り、ため池安全対策工事に緊急的に取り組んでいます。

こうした施策を進める中で、地元から要望の強い土地改良予算について、本県では、本年度の県予算93.7億円に加え、昨年10月臨時議会で補正予算45.1億円を計上し、国の農業農村整備予算が大幅に削減される前の21年度当初予算と比較して134%の138.8億円を確保しました。今後とも、国事業の積極的な活用を図りながら様々な工夫し、必要な事業制度の充実や予算の確保に努めてまいります。

本年は、いよいよ来年に迫った国による米の都道府県別生産数量目標の配分廃止等農政の大きな転換を控え、土地改良区の皆様を始め、地元農業関係者にとって大変重要な年となります。県としても、職員一同、心を一つにベストを尽くして参りますので、会員各位におかれましても、引き続き、本県農政の推進に、より一層のご尽力をいただきますとともに、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、土地改良関係団体の限りないご発展と皆様方のご健勝、ご多幸を心からお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。



年頭のご挨拶

富山県農林水産部
農村整備課長 志村和信

謹賀新年。平成29年の新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

皆様には、本県の農業農村の振興、及び土地改良事業の推進に、日々ご尽力頂いておりますこと、心より感謝申し上げます。

昨年は、7月10日の参議院選挙、10月23日の富山県知事選挙など、重要な政治的動きがありました。本県選出の野上浩太郎議員は官房副長官として国政の最前線に立たれ、全国比例代表で当選した進藤かねひこ議員は「土地改良は日本の命綱」を信条として政治活動を開始されました。本県では、石井知事の4期目の県政が始動し、富山県の新たな飛躍、発展を目指して、新幹線開業効果と地方創生戦略の二つを追い風として最大限に活かしながら、「とやま新時代」にふさわしい県づくりの取組みを具体的に県民に示す新しい総合計画の策定作業が始まっています。

昨年9月2日に発表された「富山県経済・文化長期ビジョン」では、「経済（10の構想）」の一つとして、「成長産業として力強く魅力あふれる農林水産業の確立」がうたわれています。本県の豊かな食を育む広大な水田を十分に活かし、多くの若者が夢を持って就業できるよう、今後更に進展が予想される最先端技術の活用や他分野との連携を一層推進しながら意欲ある担い手の所得を増大し、成長産業化を目指すというものです。このためには、本県農業の特長である整備された水田を活かし、GPSや高性能センサー、ロボット技術に加え、ICTやセンシング技術を取り込んだ栽培・水管理システムを構築していくことが必要です。本年、土地改良としては、水田の大区画化や高機能化の整備を加速させるとともに、本県では初となる水管理のICT化等の省力化技術の普及を図る取組みに着手したいと考えており、様々な視点から未来型とやま農業の実現に貢献したいと考えています。

今後とも、皆様方とともに、新しい時代のとやま農業を築く取組みについて、悩み、苦しみ、そして前進の一步を踏み出していく、そのための努力を積み重ねてまいりますので、引き続き、ご指導・ご鞭撻の程お願い申し上げます。

最後に、本年が皆様とご家族にとりまして、幸多き年となりますことを心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

富山県農林水産部
農村振興課長 飛 世 隆 一

新年明けましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、ご家族とともに健やかに新年を迎えられたこととお喜び申しあげます。また、日頃から本県農業農村の振興に格別のご支援、ご協力をいただいておりますことに、心から感謝申しあげます。

さて、農業をめぐる状況が厳しさを増す中、国においては、農業農村の振興に向け、農業や食品産業の成長産業化を促進する「産業政策」と、多面的機能の維持・発揮を促進する「地域政策」を車の両輪として農業の基本政策の改革が進められているところです。

このうち、地域政策である「日本型直接支払制度」については、地域の共同活動により、地域資源の維持・継承を推進する「多面的機能支払制度」や、生産条件が不利な中山間地域等における営農の継続を支援する「中山間地域等直接支払制度」等が法定化されました。本県においては、貴会をはじめとする関係機関のご支援ご協力に加え、各地域に暮らす皆様のご尽力もあり、「多面的機能支払制度」については取組面積率が72%、「中山間地域等直接支払制度」については取組面積率85%と、これらの制度が積極的に活用されているところです。

また、国民の価値観やライフスタイルが多様化する中、「農村回帰」の流れが生まれており、豊かな自然、美しい景観、優れた伝統文化等に恵まれた中山間地域がその受け皿として期待されています。県では、こうした地域の高齢化や人口減少による集落機能の低下や、鳥獣被害による生産意欲の減退等の課題解決に向け、昨年3月に「富山県中山間地域活性化指針」を改定し、「豊かな資源をなりわいに活かす郷」「自立し、交わり、みんなで支えあう郷」「自然と共に安全・安心・快適に暮らせる郷」をめざし、グリーン・ツーリズム等による交流人口の拡大や6次産業化・農村女性起業、鳥獣被害防止対策などの施策を積極的に展開していくこととしております。

今後とも、多面的機能が適切に発揮され、活力ある農業農村の形成をめざし、農業農村を取り巻く情勢の変化や多様な課題に対応しながら各種施策を総合的に着実に推進してまいりたいと考えておりますので、皆様の一層のご理解とご協力をお願いいたします。

結びに、平成29年が明るく実り多い年でありますように、会員の皆様のご健勝と、富山県土地改良事業団体連合会のますますのご発展をご祈念申しあげまして、新年のごあいさつといたします。

平成28年度 県土連理事会の開催

平成28年7月29日（金）富山市の「ホテルグランテラス富山」に於いて、平成28年度第1回理事会、12月6日（火）「富山県土地改良会館」に於いて、第2回理事会が開催されました。

はじめに河合常則富山県土地改良事業団体連合会長より挨拶のあと、会長を議長として議事に入り、すべて原案どおり可決承認されました。

【第1回理事会】

- ・平成27年度事業報告及び一般会計収支決算について
- ・諸規程の一部改正について
- ・第39回全国土地改良大会石川大会について
- ・農業農村整備事業予算の動向について

【第2回理事会】

- ・平成28年度業務中間報告について
- ・土地改良制度の現状と課題



第10回「元気とやま」むらづくり推進大会の開催

平成28年8月9日、富山県民会館ホールにおいて富山県主催による第10回「元気とやま」むらづくり推進大会が開催され、農業及び土地改良関係者等約1000人が出席しました。農業・農村の振興と多面的機能の発揮を図るため、県内では多面的機能支払制度、中山間地域等直接支払制度、耕作放棄地対策や都市農山漁村交流が多くの地域で進められており、これら取組の必要性や成果を県民の皆さんに広くお知らせするとともに、活動指導者の情報交換等を図るために開催されたものです。

石井隆一知事の挨拶のあと、来賓として小林厚司北陸農政局長、大野久芳県議会議長、河合常則富山県土地改良事業団体連合会長の挨拶がありました。

引き続き今年度「農村振興・環境保全優良活動コンクール」知事賞の受賞6団体に知事から賞状が贈られました。

その後、「若い力で元気なむらづくり」をテーマにしたパネルディスカッションがあり、相模女子大学の久里徳泰教授をコーディネーターに県内外の若手農業経営者らによる意見交換がありました。

続いて、一日市場の参加者からのPRと、事例発表として受賞6団体から活動内容について発

表があり、最後に小野集落協定の小野光人氏により「元気とやまむらづくり」に向けて総力を挙げ取り組むとの大会宣言が読み上げられました。

また、1階のロビーではパネル展示や、県内11団体の特産品等の販売コーナーが設けられ、一日市場として賑わいました。

優良活動受賞団体は、次の6団体です。◇金山農地水環境保全委員会(朝日町)◇八尾地域広域協定運営委員会(富山市)◇大坪地区環境保全推進委員会(砺波市)◇山田鎌倉集落協定(富山市)◇小野集落協定(高岡市)◇特定非営利活動法人速川活性化協議会(氷見市)



「平成28年 とやま水土里フォーラム」の開催

平成28年9月21日、アイザック小杉文化ホールにおいて富山県と富山県土地改良事業団体連合会との主催による「平成28年とやま水土里フォーラム」が開催され、土地改良関係者、県・市町村等 約550人が参加しました。

主催者を代表して、石井隆一知事、河合常則富山県土地改良事業団体連合会長から開会の挨拶があり、続いて来賓の小林厚司北陸農政局長、大野久芳県議会議長、夏野元志射水市長の祝辞がありました。



次に県知事表彰があり、土地改良施設の維持管理や、多面的機能の発揮のための活動に取組み、他の模範となる団体および個人に対して「とやま水土里賞」が石井知事から授与されました。



受賞されたのは、次の2団体と4個人の方々です。おめでとうございます。

- ・新田用水維持管理委員会(富山市:旧八尾町)
- ・玄手川水環境維持管理協議会(高岡市)
- ・長原 隼 氏(入善町)
- ・吉田 幸一 氏(富山市)
- ・北海 外男 氏(高岡市:旧福岡町)
- ・柴田 明悟 氏(小矢部市)

つづいて、基調講演に入り、木地智美氏(気象予報士、防災士)が「とやまの気象と災害への備え」と題し講演されました。近年懸念される異常気象の中、日本および富山県の気象特性や気象災害のほか、それらを踏まえ、防災士の視点から災害対策の必要性や重要性についてお話がありました。また、引き続き富山県の防災対策の実施状況などについて、県農村整備課志村課長とのトークセッションが行われました。



次にとやま水土里賞の団体受賞者である、新田用水維持管理委員会と玄手川水環境維持管理協議会から事例発表が行われ、午前の部を終了しました。

一方、会場1階ホワイエでは高岡管内の農産加工グループ等による展示・販売が、屋外では農業用コンクリート製品等の展示があり、大勢の来場者で賑わいました。



午後の現地研修では、西部排水機場、あしつきの郷(農事組合法人)、イクリの里展示室、射水市新湊博物館を大型バス8台に分乗し研修を行い、全日程を終了しました。



第39回全国土地改良大会(石川大会)

平成28年10月25日(火)石川県金沢市のいしかわ総合スポーツセンターに於いて、第39回全国土地改良大会が「水土里の明日を築く土地改良今こそ未来へつなぐ」をテーマに金沢市で開催され、全国から土地改良関係者約4,300名が参加し、本県からは92名が参加しました。この大会は、農業農村整備に携わる全国の関係者が一堂に会し、新たな農業の展開方向に即して、改めて農業農村整備の使命を再認識し、関係者の総力を挙げて我が国の農業・農村をさらに発展させることを目的に開催されています。

式典は、開催県である水土里ネット石川の西村会長の挨拶で始まり、主催者を代表して全国水土里ネットの二階会長から挨拶。続いて、谷本石川県知事及び山野金沢市長から歓迎の挨拶。さらに儀崎農林水産副大臣及び都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問の進藤参議院議員から祝辞が述べられました。その後、土地改良事業功績者表彰が行われ、農林水産大臣表彰6名をはじめ、農村振興局長表彰16名、全国土地改良事業団体連合会会長表彰46名が表彰されました。

続いて、室本農村振興局次長から「国土と未来を築く土地改良」、丸山石川県立大学参与からは、「石川ゆかりの農業農村を支えた先達」と題して基調講演がありました。その後、北陸の優良地区事例紹介があり、新潟県から柏崎土地改良区、福井県から九頭竜川鳴鹿堰堤土地改良区連合、本県は黒部川左岸土地改良区の尾山工務管理課長から「土地改良区が取り組む小水力発電」と題して事例紹介がありました。

その後、大会宣言に移り、最後に、次期開催県の静岡県が紹介され、水土里ネット石川の酒井副会長の閉会の挨拶をもって、盛会裡に閉会しました。

〔本県の受賞者〕

- ・農林水産大臣表彰
大門町土地改良区 理事長 長原 一夫 氏
- ・全国土地改良事業団体連合会会長表彰
前 立山町土地改良区 理事長 福島 昇 氏



北陸四県土地改良事業団体連合会協議会 農業農村整備事業に関する要請

平成29年度の概算決定に向けて、北陸四県土地改良事業団体連合会協議会(幹事県 石川県)では北陸四県の各土連の会長、事務責任者が、平成28年11月25日に北陸農政局長をはじめ、農政局幹部職員に対して、また、11月29日には東京都内にて、自由民主党本部と各県選出国會議員、農

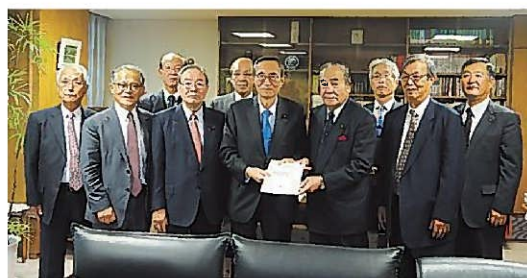
林水産大臣ほか農林水産省の幹部職員、財務大臣ほか財務省幹部職員に対して農業農村整備事業当初予算増額の要請を行いました。

特に自由民主党細田博之総務会長、下村博文幹事長代行とはそれぞれの執務室にて面会し、要請事項を直接伝えました。

要請先 自由民主党、財務省および農林水産省政務三役、県選出国會議員、財務省および農林水産省幹部職員と北陸農政局幹部職員

要望事項

- 農業農村整備事業の着実な推進について
 - ・農業農村整備事業(公共)当初予算の確保
 - ・農山漁村地域整備交付金(公共)当初予算の確保
 - ・農地耕作条件改善事業予算の確保
- 農業・農村の再生に向けた支援
 - ・「多面的機能支払」の予算確保
 - ・「中山間地域直接支払」の予算確保
 - ・「鳥獣被害防止総合対策交付金」の予算確保
- 農家の負担軽減に向けた支援
 - ・農家の負担軽減対策(国庫補助率の嵩上げ)や土地改良施設管理、土地改良区運営支援に係る補助事業の充実と十分な予算確保
 - ・電気料金の値上げにより、農業用水利施設等の運転経費高騰の影響を受ける土地改良区への支援
 - ・再生可能エネルギーを活用した小水力等発電施設整備にかかる補助制度の継続と安定した「固定価格買取制度」の運用継続



自由民主党 細田博之総務会長



自由民主党 下村博文幹事長代行



北陸農政局 柏原次長

平成28年度富山県建設優良工事(土地改良部門)の表彰

富山県が建設技術の向上と建設工事の適正な施工を行い農業農村整備事業の健全な発展を期するため、毎年実施している県内優良工事の平成28年度「知事賞」並びに「農林水産部長賞」の表彰式が、平成28年11月30日富山県民会館において工

事関係者を招き開催されました。

また、各農林振興センターの表彰式は、新川管内(12月7日)、富山管内(12月6日)、高岡管内(12月9日)、砺波管内(12月9日)で、それぞれ開催されました。

【知事賞】

受注者	分野	工事名	工事場所
竹田建設(株) 竹田 大悟	農地整備	ほ場整備窪田地区第5工区ほ場整備工事	朝日町窪田
(株)野手組 野手 弘	農村地域防災減災	河川応急五ヶ村地区五ヶ村取水工改築工事	小矢部市高木出外
梅本建設工業(株)梅本 大輔	農村地域防災減災	県営農村地域防災減災事業安居地区安居古堤堤体改修工事	南砺市安居

【農林水産部長賞】

受注者	分野	工 事 名	工事場所
鹿嶋工業・高田建設発祥建設共同企業体 鹿嶋洋一	農地整備	農地整備(ほ場)舟川新地区第15工区ほ場整備工事	朝日町舟川新
高尾建設(株) 高尾 道明	水利整備	小水力受託中滝地区管理用栈道整備工事	富山市上滝
協和建設(株) 若瀬 政雄	農村地域防災減災	用排水施設整備外輪野地区上用水路その2工事	富山市婦中町上野外
(株)早木工業 早木 一高	農村地域防災減災	農地防災庄川左岸一期地区新又口用水路第27工区工事	高岡市戸出六十歩
北陸ハイウェイ建設(株)山本 吉弘	農村地域防災減災	農地防災庄川左岸二期地区苗加用水路第11工区工事	砺波市鷹栖
(株)宮木建設 宮木 一夫	水利整備	小水力受託庄西幹線用水地区取水口第1工区工事	砺波市中野

〔新川農林振興センター所長賞〕

賞区分	受注者	工 事 名	工事場所	
県 営	最優秀賞	大久保建工	用排水施設整備片貝川沿岸地区天神野用水路第8工区工事	魚津市東山外
	良賞	(株)黒部重機	ほ場整備飯沢栃沢地区整備工第1工区工事	黒部市飯沢外
団 体 営	優秀賞	共和土木(株)	飛騨地区第1工区用水路改修工事	黒部市飛騨
	良賞	野村建設(株)	県単阿古屋野地区水路整備工事	黒部市田家
	良賞	(株)杉沢組	県単独農業農村整備事業入膳地区水路改修工事	入善町入膳

〔富山農林振興センター所長賞〕

賞区分	受注者	工 事 名	工事場所	
県 営	最優秀賞	(株)森井工務所	土地改良総合整備女川新・東福地区S-51-1-1号用水路工事	立山町女川新
	優秀賞	(株)東洋住設興業	基幹水利施設井田川流域3期地区杉田用水路第1工区工事	富山市八尾町城生
団 体 営	優秀賞	丸新志鷹建設(株)	地域用水環境整備事業常東合口幹線発電所土木その1工事	立山町木三賀
	優秀賞	南常願寺土木	県単独農業農村整備事業布市地区水路工事	富山市布市
	良賞	(株)ミヤマサ建設	県単独農業農村整備事業北押川地区工事	富山市北押川

〔高岡農林振興センター所長賞〕

賞区分	受注者	工 事 名	工事場所	
県 営	最優秀賞	富士コンテクノ(株)	土地改良総合整備上屋・鳥倉地区第1工区用水路工事	高岡市福岡町上屋・鳥倉
	優秀賞	水機工業(株)	農地防災庄川左岸一期地区新又口用水路水門製作据付その5工事	高岡市戸出放寺外
団 体 営	優秀賞	(株)宮下組	県単独農業農村整備二上地区下八ヶヶ加野用水改修工事	高岡市守護町
	良賞	上下興業(有)	基盤整備促進矢部地区第4工区工事	高岡市福岡町矢部
	良賞	射水工業(株)	土地改良施設維持管理適正化八塚用水路整備工事	射水市八塚

〔砺波農林振興センター所長賞〕

賞区分	受注者	工 事 名	工事場所	
県 営	優秀賞	水機工業(株)	小水力受託庄西幹線用水地区取水口水門製作据付工事	砺波市中野
	良賞	南長谷川建設	土地改良総合整備東般若西部地区水路整備第22工区工事	砺波市東保外
団 体 営	最優秀賞	(株)岡部 砺波営業所	県単独農業農村整備事業(快適農村環境整備)中村10号排水路整備工事	砺波市三郎丸
	優秀賞	立野原建設(株)	県単独農業農村整備事業樋瀬戸向山地区用排水路整備工事	南砺市樋瀬戸

農業集落排水施設に係る新技術普及研究会 北陸ブロック会議

本研究会は、集排施設の整備、改築、維持管理に関する技術を調査・研究するとともに、それら技術を市町村等に提供・普及し、円滑な整備及び効率的な維持管理を推進することを目的に、地域環境資源センター、全土連、地方土連で構成された組織です。

◆本年度は、石川県が幹事県となり「北陸ブロック会議」を下記のとおり開催しました。

- 1)日 時 平成28年11月15日(火)13:30～
- 2)場 所 金沢勤労者プラザ会議室
- 3)参加者 北陸農政局地域整備課、石川県水環境課、北陸管内の4県土連、(一社)地域環境資源センター集落排水部の担当者 計10名
- 4)議 事

- ①農政局からの情報提供
(説明者:柳浦農村整備係長)
・長期計画の集排目標や概算要求、管内の状況等について
- ②地域環境資源センターでの調査業務及びパンフレット改訂等の紹介(説明者:内澤上席専門員)
・H26年度省エネ型集排実証事業結果概要
・集排施設長寿命化対策調査
・耐震補強等の手引き(案)
・最適整備構想策定支援システム
- ③農業集落排水施設等に係る取組事例
(説明者:中西石川土連技師)
・省エネ技術の導入について
- ④その他
・4県土連による意見交換
(集排施設等に関する課題など)

平成28年度換地関係異議紛争処理実務研修会 (北陸ブロック)

平成28年11月17日～18日、富山市において換地関係異議紛争処理実務研修会(主催:全土連、開催県:富山県土連)が開催され、本省・農政局・全土連・北陸4県の県・県土連の換地担当者33名が出席しました。

挨拶の後、本省の細貝換地係長から「換地を取りまく状況について」と題して報告が行われました。引き続き新潟県・石川県の換地関係異議紛争処理事例に基づくケース・スタディーの検討会が行われました。テーマは、「刑事施設被収容者である者を含む相続人間の紛争処理事例」、「換地計画原案提示後、N市の公共用地確保のため、一部地区除外調整に至り紛争となった事例」について、活発な意見交換及び総括が行われました。翌18日は、福井県から「市の地籍調査の結果、換

地処分登記済みの土地に隣接して空白となる土地が判明したことから、換地計画の更正に至った事例」について説明があり検討会が行われました。最後に、中央換地センターから「財産管理制度活用実態調査のプレ調査結果」等の報告が行われ全日程を終えました。



土地改良区の組織強化を目指し、研修会を開催

ため池監視・管理体制強化 技術研修会

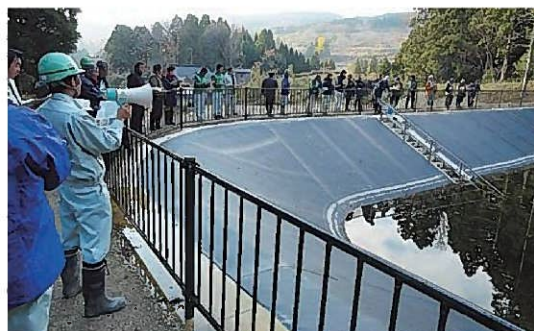
県が事業主体となり、ため池における不測の事態に備えるため、監視・管理に必要な技術取得及びため池の改修・保安全管理体制の取り組み事例についての研修会が氷見市内で平成28年11月28日(月)に開催されました。

●研修の概要

名称	規模等	内 容	講 師	管理者
加納大池 :加納地内	A=18ha V:17万 t	・ため池の日常、点検項目についてマニュアル調査票により確認 ・ため池における事故発生の状況(全国、県内)	農村整備課 高森主任 氷見市役所 土改担当者	地元 振興会
ミヤデン池 :平沢地内	A=5ha V:2,800 t	・改修事例(県営事業H28.11完成)について目的、内容および苦慮した事など ・ため池の保安全管理体制整備の取り組みについて(協議会設立～計画書、管理規定策定まで) ※H29からの実運用	高岡農林振興センター指導班 吉田班長 酢谷技師 氷見市建設課 高田副主幹	地元 自治会



【加納大池】



【ミヤデン池】

※今回の参加人数はため池管理者を含め80人を超え、災害の未然防止に向けて安全管理意識を高めると共に、ため池の保安全管理の問題点について情報の共有を図った内容になりました。

式典 発電所の竣工式並びに運転開始式

平成26年度に地域用水環境整備事業で着手した地区において、小水力発電所の竣工式、運転開始式が下記のとおりおこなわれました。

	年月日	地内	(kW)最大出力	売電開始	事業主体
芹谷野発電所(芹谷野用水地区)	H28. 9.30	射水市串田新	89	H28.10	庄東用水土地改良区
小川用水発電所(小川用水地区)	H28.10.29	朝日町山崎	190	H28.10	朝日町土地改良区
布施川用水発電所(布施川地区)	H28.12. 2	黒部市釈迦堂	258	H28.12	黒部川左岸土地改良区



【芹谷野発電所】



【小川用水発電所】



【布施川用水発電所】



情 報

◆富山県農業用水小水力利用推進協議会◆

◆技術力向上地方研修事業の一環として、小水力発電導入に係る基礎的技術の取得、指導者育成を図ることを目的に全土連が主体で中央研修が実施され、当協議会から下記のとおり参加しました。

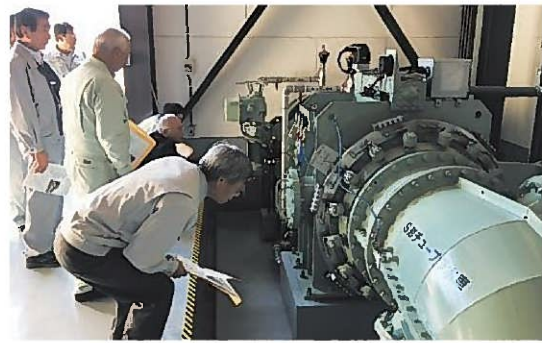
回数	月日	研修内容	参加人数
第1回	H28. 9/20～ 9/21	会計処理（複式事例、演習）	7名
第2回	H28.10/12～10/13	基本技術（計画・施工～運営）	6名
第3回	H28.11/16～11/18	応用技術（発電収支の計算） 及び現地見学	4名

◆「発電施設見学会」を下記のとおり開催しました。

- 1) 日時 平成28年11月4日（金）PM1:00～
- 2) 施設名
 - ・芹谷野発電所（事業主体：庄東用水土地改良区、H28年 9月運用開始）
 - ・小川用水発電所（事業主体：朝日町土地改良区、H28年10月運用開始）
- 3) 参加者 土地改良区等、富山県、市町村の小水力発電担当職員 約70名
- 4) 講師
 - ・富山県土地改良事業団体連合会 館野 農村整備課長
 - ・新川農林振興センター 宮崎 水利防災班長



【芹谷野発電所】



【小川用水発電所】

◆非補助農業基盤整備資金のご案内◆

1. 非補助農業基盤整備資金とは

土地改良区等が国からの補助を受けなくて、かんがい排水やほ場整備、客土などの事業に取り組み、農業生産基盤整備・保全の推進を図る場合、日本政策金融公庫等が農家負担の軽減を目的に、土地改良区等に対し低利で融資する資金です。国の補助対象でない県又は市町村単独による補助事業についても、融資の対象となります。

2. 対象となる事業種類・内容

かんがい排水、畑地かんがい、ほ場整備、暗渠排水、客土、農道、索道(軌道等運搬施設を含む)、畦畔整備、農地造成、防災・農地保全、農業集落排水(農村下水道)、発電施設。

維持管理計画書作成に係る調査費、土地改良区事務所の新增築、事務機器や複式簿記導入に係るシステム、車両など

3. 融資条件

●貸付対象者 土地改良区、土地改良区連合(事業主体となる場合に限る)、農業協同組合、農業協同組合連合会、農業を営む方、農業振興法人

●償還期間 25年以内(うち据置期間10年以内)

【農業農村整備資金利率】

区 分		H28.12.19現在
補 助 事 業	県 営	0.45 %
	団 体 営	0.30 %
非 補 助 事 業	一 般	0.30 %

〈お問い合わせ先〉・富山県農林水産部農村整備課換地業務係 076-444-3375
 ・北陸農政局農村振興部土地改良管理課 076-263-2161(代表)
 ・富山県土地改良事業団体連合会事業部管理指導課 076-424-3380
 〈融資担当機関〉・日本政策金融公庫富山支店 076-441-8411
 ・農林中央金庫富山支店 076-445-2508(公庫受託課)

お 知 ら せ

今後の主な行事予定 (平成29年1月～)

月 日	会 議 と 行 事	場 所	参 加 対 象	備 考
1月25日	換地計画実務研修会	富山県総合情報センター	土地改良区	主催
2月9～12日	とやまの農山村写真展 表彰式・展示	富山県民会館(ギャラリーB)	一 般	県
2月10日	ため池監視・管理体制強化研修会及び 災害復旧技術向上のための講習会	土地改良会館3階	県・土地改良区 ため池管理者	県
2月16日	富山県担い手育成ほ場整備研修会	アイザック小杉文化ホール(まどかホール)	土地改良区・営農関係者等	ほ研会
2月下旬	小水力等発電導入技術力向上地方研修	土地改良会館3階	小水力協議会会員	主催
3月28日	本会 第59回通常総会	ホテルグランテラス富山	会員・来賓等	主催

(注) 本案はあくまでも予定であり、別途詳細案内等を確認のうえ参加ください。

平成28年度「とやま水土里賞（知事賞）」受賞者の紹介

■ 団体の部 ■

新田用水維持管理委員会（富山市：旧八尾町）



新田用水沿線の竹林除伐

玄手川水環境維持管理協議会（高岡市）



玄手川の藻刈りの様子

■ 個人の部 ■

長原 隴氏（入善町）



四千石用水の分水ゲート操作状況

吉田 幸一氏（富山市）



二俣川の取水堰の操作状況

百海 外男氏（高岡市：旧福岡町）



五位庄用水の西明寺川サイフォンの雑物除去作業

柴田 明悟氏（小矢部市）



四ヶ村頭首工取水門の操作状況



農業農村整備事業等の調査・測量設計等業務に関する
ご相談は、下記までお問い合わせください。

富山県土地改良事業団体連合会

〒939-8214 富山市黒崎17番地
TEL076-424-3300 FAX076-424-3332
<http://www.tym-midori.net/tomidoren>

